

## 平成26年度豊浦地区まちづくり集会開催記録（概要）

◎日 時 平成26年9月27日（土）10:00～12:00

◎場 所 川棚温泉交流センター コルトーホール

◎出席団体数 21団体

下関市豊浦自治会連合会、室津地区自治連合会、黒井地区自治連合会、川棚地区自治連合会、宇賀地区自治連合会、豊浦町PTA連合会、下関市連合婦人会豊浦地区婦人会、下関市商工会、下関市老人クラブ連合会豊浦支部、豊浦町体育協会、豊浦地区民生児童委員協議会、豊浦地区子ども会連合会、下関市青少年町民会議、下関市豊浦町女性団体連絡協議会、下関市保健推進協議会豊浦地区保健推進委員会、豊浦西地区更生保護女性会、下関市食生活改善推進協議会豊浦支部、下小野地域活性化協議会、室津地区活性化推進協議会、宇賀地区活性化推進協議会、下関市消防団豊浦方面隊、川棚温泉まちづくり株式会社

◎市出席者 市長 中尾友昭

総合政策部部長：三木潤一、総合政策部政策調整監：星出恒夫

総合政策部地域支援課課長補佐：安田成興、主任：齋藤浩三

豊浦総合支所長：矢田友昭、豊浦総合支所地域政策課課長補佐：豊嶋耕治

◎傍聴者 7名

◎次第

1	開 会	10:00
2	市長講話（私が考えるあらたなまちづくり）	10:00～
3	あらたなまちづくりに関する意見交換	10:15～
4	下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案） 及び全体スケジュールの説明	10:30～
5	推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換	11:10～
6	閉 会	12:00

◎まちづくり集会開催の目的

住民自治によるまちづくりを推進するため、その基本となるまちづくり推進計画の策定等に関し、広く地域住民の意見を聴取する場として、それぞれの地域において「まちづくり集会」を開催します。併せて、それぞれの地域における住民等のまちづくり活動に対する機運の醸成を図ることを目的としています。

## ◎まちづくり集会開催

開式のことば

出席者紹介

## ◎市長講話

私が考えるあらたなまちづくり

～別紙：市長講話の概要参照～



## ◎あらたなまちづくりに関する意見交換

参加者 自治会長をしている関係から色々な会合に出る機会が多く、また、民間会社に長く勤めていたので、上に立つ人の指示・命令が、いかに実質的な効果が得られるように設定していけるかが重要だと感じている。

そのため、推進計画（素案）が絵に描いた餅にならないように、市長、或いは本庁の幹部の方の指示・命令が非常に大切だと思っている。

市長には、市の最高責任者として、計画の実現に向け、その辺りを常に頭に置いて進めていただきたい。

市長 企業であれば、すぐに一体となって進めて行くが、その意味では、市役所も企業と同じ。違いは、利益を求めない代わりに、市民サービスを行うということ。

私が市長を6年間勤めさせて頂いた中で、この度の事業は、ハード事業とソフト事業と言われるが、ソフト事業で最大のものだと考えている。そのため、副市長、部局長、担当以外にも徹底して取り組んでいきたいと考えている。

既に市内全ての小・中学校でコミュニティ・スクールが始まり、全国的にもモデルケースにもなっているが、これも地域内分権の一つ、住民自治によるまちづくりの中の一環なので、いずれは一緒になる。あれもこれもと沢山つくるという訳ではないので、市民の方になるべく負担をかけずに、まちづくりに効果があるよう心掛けていきたい。

参加者 私たちは、この地区に住んで良かった、これからも住み続けたい、という思いで、市へ50件余りの要望を出しているが、地域内分権の中で、これを実現することが地域住民の願いだと思う。そのため、権限だけでなく、予算も総合支所にもっと渡して欲しいと思っている。

市長 限られた予算の中で、市役所が責任を持って地域に貢献していくし、なによりも、皆さんが安心して安全に暮らしていける、また、健康で快適な生活ができる、これは市役所の役目であり、当然のこと。

それはやりながら、市への要望事項の実現ですが、全部の要望は、市全体で優先順位がつくので、私が考えたのは、ある程度、予算を市民に渡し、地区の皆さんが優先順位をつけ、あまり大きな事はできないかも知れないが、これまで市役所に要望してもなかなか実現できなかった事を、地区でやってみよう、というのはできると思うので、是非お願いします。

市民 普段、住民自治または川棚温泉まちづくり株式会社という住民が出資した会社で美しい景観をつくり、来訪者を増やす仕事をしている。

私たちは、まちづくりは景観づくりだと考えており、景観は風景だけに限らず、川棚であれば、海、山、田園があるということで、市の景観計画にも響灘の景観や田園景観が入っている。

そこで、響灘に建設が予定されている洋上風力発電施設については、色々な場所で働いている方、生活されている方の意見もあると思うが、私は観光振興の立場から意見を述べると、ここはアルフレット・コルトーが愛した場所であり、海に浮かぶ厚島を見て絶賛した場所でもある。

厚島は標高が約80mなのに対して洋上風力発電施設は150mもあり、この建設に単純に反対を唱えるのは早計かも知れないが、景観を大切に、訪れる人が増えるような取り組みをしているので、この件についても、新しく作る協議会の中で話し合うテーマの一つになれば良いと思う。

そこで、市長には、この厚島や景観に対するご意見をいただけたらと思う。

市長 市長としては、1市4町のうち、特に4町について、日ごろは海峡のまち、長府の歴史、市場、カモンワーフ、観覧車、駅周辺の映画館などに目が向きやすいが、4町にも、それぞれ様々な特色がある。

これまでも随分がんばってこられていますが、まちづくり協議会の中で、皆さんの気持ちを一つにし、もっと盛り上げていければ、互いに良い影響を与えられると思うので、是非、頑張ってください。

景観については、まちのデザインなど、色々あると思うが、見るだけの景観もあれば、豊浦町という雰囲気もある。

最近では、コルトーでも随分と盛り上がり、この周辺も立派になってきたので、大変うれしく思っていますが、洋上風力発電施設の件も、まちづくり協議会の中で話し合いたいというのであれば、自主的な組織なので、皆さんで話し合いもできるし、専門家を呼んで話を聞くのも一つの方法だと思う。

現在、安岡では洋上風力発電施設建設への反対の意見も随分と出ているが、実際の建設までには時間もかかるので、皆さんが勉強する時間もあれば、説明する時間もある。調査は段階的に進むが、調査が済めばすぐに着工ではなく、市長が皆さんの色々な意見を書いて、県知事に送り、知事は環境省に送り、最終的には国が決めるのですが、その間でも市の環境審議会、県の環境審議会が何度も行われ、それに皆さんの動きを全て書く準備書もある。

そのため、皆さん方は、すぐに風力発電施設ができるということへの不安では無く、業者からの説明、色々な試験や専門家の話、低周波、景観の問題、そうは言っても住民の方も受任するので、地域全体がそれなら賛成するのでやって下さいという仕組みづくりができるかどうかであり、かなりハードルも高いが、是非、皆さんも考えて欲しいと思うし、そういう経過を経ることで、豊浦町を大事にしようという機運も盛り上がると思う。

少し話はそれるが、先日、PTAから中学校の通学路が危ないという話があり、地区の様々な方が集まって会議が行われましたが、その事を知っていたのはPTAだけで、残りの方たちは、どこの話かも分からないという状況だった。

そういった課題があるということ、個別の団体だけでなく地区の皆が共通で

持つだけでも、相当の進歩だと思うし、オープンな場で、色々な事を話し合う、そういうことが将来のまちづくりにつながると思う。

この集会は、今後も毎年のように開催し、徐々に取組みも進んでいくので、地区の皆さんに、すぐに取り組んで下さいという訳ではない。

まちづくり集会は、この地区が13ヶ所目になるが、やはり地区によって温度差もあるし、日頃から連合会や色々な団体が集まって交流している地区では、我々がこの仕組みを提案する前から地区の中で話し合いが行われ、是非やりたいと希望する所もある。そういう地区は早めに協議会を立ち上げ、活動していただき、その成功事例を市内全体に伝わるような仕組み作りをしていく。

一方で、タウンミーティングも含めて初めて参加する方が多い地区からは、初めて聞いたので意味が良く分からない、と言う人もいる。そういう地区は急ぐ必要も無いので、ゆっくりと進めてもらえればと思う。

これは、先の長い事業になるので、私も毎年、この会議に来て、現状やこれからの事をお話ししたいと思うし、市役所職員のフォロー体制もあり、議員も顧問になれば議会の話も含めて、皆さんにアドバイスできると思うので、是非お願いする。

まちづくり協議会には、市民の皆さんの税金をお任せする形になるので、会計もしっかりとする必要があり、会計の監査も必要だ。

いきなり補助金を出すので、地区で好きなように使って下さい、とはならないかもしれないが、地区が取り組みたい事業を市に提案し、簡単なチェックを経て、予算をつけることになる。

是非、地区の中で意見をまとめ、頑張って活動して欲しいと思う。

## ◎下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案）及び全体スケジュールの説明

～別紙：説明概要及び説明資料参照～

## ◎推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換

参加者 推進計画（素案）を読むと、市はキチンと整理されて間違いも無いように感じるが、具体的な事、市の考えが良く分からない。

参加者も、その必要性は、市長の話で分かっていると思うが、これを不退転の決意でやるというのであれば、もう少し具体的な話をして欲しい。

宇都宮市の例も示されたが、あれは市が実際に行って調べたのか、それともインターネットなどを使って調べたのか、どのようなメンバーで実際のまちづくり協議会を構成しているのかなど、より具体的な説明が必要だと感じる。

自治会長をしていると、充て職で色々な会合に参加する機会が多いが、毎年、約半分のメンバーが交代するため、他市ではどのようにやられているのか。

また、自治会では、我々の立場はボランティアであり、会議の場所や費用なども市からはほとんど出ない。

そういう実態も踏まえ、どのような組織で、どのように立ちあげて、どのような考えで、どのような課題があつてと、より具体的な説明が必要だと思う。

総論を否定するものではないが、各論、例えば電化製品の説明書を読んでも良く分からないが、実際に使ってみるとその意味が分かる。実に完璧に計画を作っているのかもしれないが、そのエネルギーを少し具体的な事に注いで欲しい。

市担当 本日の集会の目的は、推進計画（素案）に対する皆さん方の意見をいただくということ。これまで推進方向を作成し、この推進計画（素案）とは別に、マニュアルも並行して作っており、その中で、組織の立ち上げ方、補助金の申請方法、他市の具体的な事例などを掲載する予定であり、10月末の完成を目指している。

地区の機運が盛り上がれば、より具体的な話も必要となるので、補助金の対象経費や対象とならない経費など、より具体的に示す予定としている。

説明の中で例として示した宇都宮市は、実際に視察を行い、市の担当者から制度について説明を受けたが、地域の実際の活動までは調査していないので、次のステップとして、今後、そういった調査も必要かと思う。

市担当 もっと具体的な部分として、設立準備会の設立前の段階が必要だと思う。色々な前準備として、誰に話をして、設立準備をしていくのか、或いは、豊浦町の住民への周知がまだ足りないというのであれば、改めて説明会を開催する必要もあるかもしれない。

本日の集会は、定型の話だが、本当に具体的なところは、皆さんと相談しないとイケない。もし、皆さんの中で窓口になっていただける方がいれば、そこから話を進めていきたいと思っている。

参加者 住民自治によるまちづくりは、先ほども総論は理解しているという話があったが、その理解には恐らく濃淡があって、前に進みながら、或いは一歩進んで二歩戻りながら、理解を深めていくものだと思う。

そのためには、まずは一歩踏み出すことが大切であり、せっかく今日はこういった豊浦地区のメンバーが集まっているので、次回、もう一度同じメンバーが集まり、推進計画（素案）で言えば発起人レベルの話だということで、私たちのレベルで、この問題をどう取り組んでいくのかを、それぞれフリートーキングで話し合うことも、第一歩としてはあるかと思う。

そこで、メンバーが、まだ我々は参加が難しいと言うのであれば、それは構わないと思うので、10月中・下旬にでも市のアドバイザーにも加わって頂き、豊浦地区でどうするのかを話し合ってはどうかと思う。

市担当 まちづくり集会を開催してきた中で、他の地区では、若い人にもっと参加して欲しいという意見もあったが、やはり自治会の役割は大きく、自治連会長を中心としないといけないという意見も結構あった。

まずは、このメンバーで話し合いを、という事も良いと思うので、今度は地域が主体となってフリートーキングをし、それに行政も加わって、分からないことは質問していただいても構わないし、それが自主的に任意の組織を作るという面では望ましいと思う。

行政からの声かけが無いと進まないという地区も中にはあったので、そういった地区には、市もマニュアルができた後に声かけをしようと思っている。

参加者 地区の人が集まって組織を作るのは大変、骨の折れることで、まとまりも直ぐにはできないと思う。

私の集落では、まずは出来ることからということで、近年、地球温暖化の影響なのか異常気象も頻繁に発生し、地震や津波などで自然災害への関心も高まっているので、海岸に近い私の集落では、市が作る防災マップとは別に、集落独自の手づくり防災マップを作り、集落の全世帯に配布する予定。

市が作る防災マップは、航空写真などを使っているため、いざというとき、住民にはなかなか分かりにくい面もあるので、集落で生活する人、子どもからお年寄りまで、避難できるように、私たちは、集落の一軒一軒を実測に基づいてマップに落とし、避難場所までの道がすぐに分かるようなものを作った。

海岸に近い他の集落でも、この防災マップを参考に作ってみてはいかがか。

まちづくり協議会も、まずは取り組み易いものからやっていけば良いのではないかと思う。

市担当 まさに、まちづくり協議会が目指す取組みの一つだと思う。

現在、安心・安全への関心が高まってきているので、まちづくり協議会の中でも是非、この取組みを拡げていただければ良いと思う。

小さな範囲でやられている良い取組みを、こういった場で発表し、地区全体に拡げていくというのも協議会の役割だと思っている。

参加者 自治会だけに限らずボランティアの立場としてまちづくりに参加する者、市職員のように仕事としてやる者、これをいかに変えていけるかが非常に大切だと、色々な会議でも意見がでる。

先ほど、市長は、今日の集会にはお茶1本しか出せずに申し訳ないと言われたが、今後、市は予算をどうするのが良く分からない。総論は良く分かるが、具体的なイメージが湧いてこない。その辺りを行政はどう考えているのか。

スケジュールには書かれているが、活動拠点の問題、ボランティアの問題など、市はどう具体化していくのか教えて欲しい。

市担当 発言の内容はもっともで、市もなるべく早く具体を示していく必要があるが、次の会合が10月となると、マニュアルを示せるかは分からないが、他市の事例を示すことは可能だと思う。

補助金の額は、議会の予算審議に関係するので、すぐには示せないが、地区での事業計画は補助金額が分からないと作れないので、できるだけ早く示したい。

市担当 説明しづらい部分もあるが、大まかなものは推進計画（素案）の中にお示ししていて、協議会を設立するまでの経費は、準備経費として市が支援していくし、協議会が設立された後は、協議会を運営するための経費、活動内容に応じた経費は支援していこうというもの。

これらは、これから制度設計をする必要があるのですが、そのためには、地区の皆さんの意見をいただく必要があるということであり、他市ではどういった部分に支援をしているのか、それを参考にしている部分もあると思う。

例えば、会議のために運営委員会の皆さんがいれば、その方達の交通費はどうなるのか、運営費用としてそこに経費が出るのかどうか、或いは、報酬という

ものがあるのかどうか、そういった部分もあるかと思う。

それは、今からの制度設計なのですが、他市の一般的なものを担当者からご説明しますが、活動には、先ほどあったマップ作りが、協議会の活動として必要だというのであれば、100%補助かどうかは別として、活動費用として補助対象になるものだと思います。

市担当 事務局としての案はあるが、市全体としてオーソライズされていないので、具体的な事は他市の例となるが、設立補助金は5～15万円程度、運営と活動は、一括交付金の例が多く、少ない自治体で1地区10万円/年、多い自治体では1地区に1,000万円/年というところもあり、本市の場合、いきなり1,000万円とはならないが、いずれは交付金化をしたいと考えている。

来年度は、設立補助金になると思うが、会議に必要な資料代、地区内の全戸に周知するためのチラシの印刷代も出ますし、外部人材を呼んで勉強会となれば、その方の派遣費、交通費も考えている。

一方で、協議会スタッフの人件費や交通費は払われていない例が多い。

また、先ほど、協議会の運営には事務局が大事だと説明したが、例えば、かなりの額が出るとなれば、運営や事務処理も大変になるし、地区の活動が活発になれば、事務員も週に数日間は勤務が必要になるので、賃金を出す例もある。市も事務局設置が必要と考えており、事務員の人件費は出す必要性を感じている。先ほど防災マップの話もあったが、それを作るための実費も補助の対象となりますし、要するに、地区の中には、色々な団体、色々な活動があり、地区毎に配分される補助金の上限額の中で、私たちはこういった事業をやりたいという物を、事業費の積算や優先順位をつけて市に提出していただく形。

せっかく地区が申請したものが、市の審査段階で不可とならないように、地域サポート職員が事前にチェックし、手戻りとならないようにしていく。

当然、会議での消耗品代やお茶代などは出ますが、先々ではパソコンなど備品も必要となりますので、賃借なのか或いは別の方法なのか分かりませんが、細かな所は今後整理していく。

参加者 住民自治によるまちづくりについて、現時点での私の理解を話させていただくと、行政にお願いしたいのが、恐らく、この取り組みによって地域から特色あるものが出て、その内容によって1国2制度的な判断が求められるかもしれないが、その時、市は大胆にどう取り組むのかという事が1つあると思う。

現在、総合計画の説明会が行われているが、その中で、「地域づくり」という視点を横軸とした取り組みが大切であり、縦軸で進められているあらゆる施策に横軸として「地域づくり」という横軸を刺した場合、縦割りの施策はどうなるのか、という視点を常に考えて欲しい、と発言した。

地区の事で言うと、自治会では、私も含めて皆さん、日々の活動に手いっぱい、とても疲れている。そうした中で、誰がこの活動を担うのかという疑問も生じるが、各自治会では立派な活動が行われているし、本日の参加者もそれぞれの団体で活動している。それらの活動は、今まで通り続けるというのが前提で、その様な活動を本地区全体に広げていくのか、或いは、本地区の中で新た

に課題を見つけ、新たな取り組みをするのか、そういった話はまちづくり協議会の中の議論になると思う。

或いは、本地区の取組が、下関市全体でやるというテーマになるかもしれない。

私は、今後、そういったテーマを探していきたいと思っている。

行政の仕組みの中に取り込むテーマを探していく必要があるし、そうでなければ、この仕組みも意味がないと思う。

少なくとも、この地区のまちづくり協議会でイベントをやるというのは反対であり、そういったテーマが出たら、考え直そうと言う。

今まで地域でやってきた事をベースに、仕組みづくりを皆で一生懸命に考える、そういうことだと思う。

やはり、この協議会は若者を取り込むことが大事だと思うので、次回は、このメンバーが集ってフリートーキングをし、その時は、倍のメンバーが集まるような準備会、ここだけのメンバーで物事を進めるのは不十分だと思う。

どちらにしても、このテーマはくたびれる話ですが、行政は地域づくり、まちづくりという視点で仕事を行い、私たちも地域づくり、まちづくりという視点でボランティアを行っている。職業としての地域づくりと、ボランティアとしての地域づくりで、後者はとても疲れ、自治会長も疲労感がかなりあるが、やはり、地域のことは自分たちがやらざるを得ない。

そういったボランティアのまちづくりに、行政がどれだけバックアップしてくれるかにかかっているので、是非、人材の投入、拠点の確保、財源も準備をして欲しい。プロである行政には、我々に色々な情報を提供し、或いは行政のアイデアも是非出して頂きたいと思っている。

市担当 この仕組みの本旨は、今の発言のとおりだと思っている。

この地区の取組が市内全域に拡がるという冒頭の話は、とても好ましいことで、推進計画（素案）には、住民自治によるまちづくりでの市の役割を述べているが、自分たちは地区でこれをやるが、行政は行政サービスでこれをやってもらわないと、我々の活動自体が成り立たないということであれば、それは行政と皆さんと一緒に考えて、行政が担っていかないといけないし、整理をしないとイケなと思う。

それがこの地区だけの事なのか、或いは行政がやるべきサービスならば、地区の独特のものについて対応する部分もあるかもしれないが、本来は市域全体に同じ行政サービスをしていくように考えていかないといけない、共通の課題だろうと思う。

参加者 まちづくりはまちを作ることだと思うが、推進計画（素案）にある協議会の組織体制（例）の全てに意味があり、防犯・防災、環境保全、子どものこと、福祉などはすごく大事であり、それを維持するために、まちをどう元気にしていくか、これには産業など色々あると思うのですが、それを進める中で、社会問題だとか、地域のイベントだとか、自治会長もすごく大変だと思う。

一方で、まちづくり協議会をどうするかはこれからの話ですが、元気にすることなしに、地域を守るという側面だけでは、話が進まないと思う。

地域自治なので、住民が好き勝手な事、希望ばかり言えば良いというものではなく、やはり財源も税金なので、その中でまちを元気にする方法として、本日も大変な準備をされて、宿題も沢山でると思うが、行政のサポートとかではなくて、地域自治を叶えるためにも、住民である女性の皆さんと一緒に協働とか、会議の日程とは、そういう視点で、組織図にしてもそうですが、アドバイザー的な事ではなく、仕事の中で経済政策や社会問題などを考えている行政の皆さんも、地域を元気にするという事で、この協議会で話をすべきかどうかは分かりませんが、まちを元気にする中で、まちづくりが市民の皆さんが抱える問題や不安を解決していくことだと思ふし、協議会の備品や活動などには財源も必要なので、その辺りを考えていただくことは大変ありがたいですが、今後のこととして、例えばこの組織図の中に、協働という視点で、行政の攻めの視点を教えていただく、どうすればサポートができるかだとか、そういうことが話合えればよいと思う。

市担当 まちづくりという話になると、防災や子どもの見守りという話だけではなく、いかに活性化、高みを目指していくのかという事かもしれません。行政に、こうやって欲しいという考えがあるかと思いますが、自分たちが主体的に取り組む中で、行政にこういった事に力を入れて欲しいという物があれば、言っていただくこともありだと思ふ。

しかし、今、私たちが考えているのは、要望や陳情のための組織を作って下さいという訳ではないので、発言された、協働の関係で市は何を担うのかという部分については、大いに協議会の中で議論していただきたいと思ふ。

市担当 他の地区での話だが、耕作放棄地があるが何とかならないか、これは地区で取り組むので、ここは行政にお願いできないか、という協働のあり方もあるかと思ふし、色々な話し合いをする中で、これは行政でなければできないという部分は、協議会の中で話をし、市に提案するのも良いかと思ふ。

しかし、まずは皆さんの身近な困りごと、地域の課題、地域の活性化ということで、レベルの高い話をしていただいたが、地区には色々な団体の方もいるので、話し合ってもらって、皆さんの総意を作っていただきたい。

今度、皆さん方が集まるときには、市も一緒に参加したい。

参加者 これまで、既にいくつかの地区でまちづくり集會が行われたと思うが、他の地でどのような意見が出たのかを分かる範囲で教えて欲しい。

市担当 地区によって、この取組みに対する意識の濃淡があり、少しでも早くやりたいという地区、地区の皆にも意見を聴きたいので、地区の集まりに来て説明して欲しいという地区、一方で、高齢者ばかりなので誰がやるのか、難しいという地区もあったが、最後はやらないといけないう意見で終わった。まちづくり協議会と似た組織を持つ地区では、その組織を少し見直してやるだとか、もっと具体的に示して欲しいという意見もあった。その辺りの意見は、取り纏めて市のホームページにも掲載していく予定。

市担当 具体例があつて、まちづくり協議会を作ろうと言っている訳では無いのです。地区のまちづくりを自主的にやりたいという話もある中で、自治会長は大変多

くの役職を兼ねていて、新しい組織をつくと更に大変になる、という意見もあったが、我々がやらないと、多分、できないよね、というのも事実。ただ、総じて、PTAなど若い人にも入って欲しい、PTAに限定する訳ではないが、若い人が入らないと、これからずっと続けていけないだろうという意見もある。それと、女性の意見も入れていく必要があるという意見、私たちも組織を作る際には女性も入れて欲しいと思っているのですが、身近な課題を把握しているのは、女性がおおいかなと思う。

全般でダメだという意見は無いが、作ってみようとは思いますが、具体的なものがないので良く分からないという意見もある。